

9 (2017.Sep.)
 vol.117

巻頭特集
サウンド外部
 2017, Summer
 外部アンプの注目
 ●AUDIO WAVE
 ●バガーニソ
 ビーウズ Kジ



1. フロントは6インチ、4インチ、1インチの3ウェイ構成。いずれもアークオーディオ・Blackシリーズのスピーカーユニットを組み合わせている。
2. 注目なのはミッドレンジに用いたBlack4.0。ミッドレンジとしては大抵のモデルを用いることで、中高音域を高い位置から再生することに成功。ホールカル帯域はほぼミッドとトゥイーターが担当するので音の厚みが段違い。
3. DAPなどからのデジタル入力をアナログ変換しているのがオーディオテクニカの最新DACであるAT-HRD500だ。

Car audio system unit
 ホータブルオーディオプレーヤー/ソニー・ウォークマンNW-WM1Z
 シグナルプロセッサー/アークオーディオ・PSB+PSC
 パワーアンプ/アークオーディオ・4200SE TRAD, 4100SE ADVANCE
 フロントスピーカー/アークオーディオ・Black6.0, Black4.0, Black1.0
 サブウーファー/アークオーディオ・ARCAUDIO10
 RCAケーブル, スピーカーケーブル, パワーケーブル/M&Mデザイン

サウンドクオリティを一断させる
外部アンプ攻略法!!

パワーアンプの選択で
 クオリティは左右される

パワーアンプの持つスピーカーを制御する能力を重視

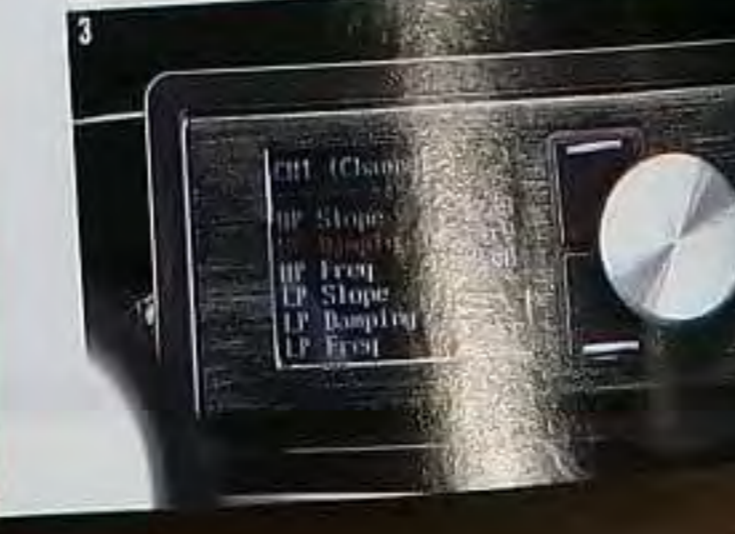
このクルマのパワーアンプに選んだのはアークオーディオの「4200SE TRAD」と「4100SE ADVANCE」。フラッグシップモデルである「4200SE TRAD」でミッドレンジとミッドバスを、「4100SE ADVANCE」でトゥイーターとサブウーファーをドライブする。アンプチョイスの理由はダンピングファクターの高さだ。スピーカーを制御する力を表すダンピングファクターが高いモデルだけに、スピーカーを動かす/止めるという基本特性に備わっている力が魅力。そこから生み出されるのが躍動感あるサウンドだという。また長時間パワーをかけ続けても熱がたまりにくい耐久力も大きな魅力だ。インストーラーが選んだ「心躍る音楽再生」にはパワーアンプの能力が大きく影響しているのだという。



ラグジュアリーにはアークオーディオの10インチサブウーファーをインストールする。



1. フロントにはアークオーディオのBlackシリーズによる3ウェイを構築。音の厚みを引き出すサウンドコントロールを施している。
2. デジタルプロセッサーにはアークオーディオのPSBをチョイス。コントロールには新製品のPSCを組み合わせる。
3. PSBのコントローラーであるPSCは音量などの通常操作に加えて、クロスオーバー設定などの細かい調整を行うこともできる。パソコンなどを使うことなく、手元で詳細な設定変更も可能だ。



POWER AMPLIFIER WITH HIGH BRAKING POWER

躍動感満点のサウンドを引き出すため
 制動力の高いパワーアンプをチョイス



東京都杉並区に店舗を構えるアプロースのデモカーとして製作されたメルセデス・ベンツCクラス。パワーアンプからスピーカーまでアークオーディオでまとめたシステムデザインを採用し、オーディオコンパで高揚感を狙うための独自の工夫を凝らしたのが注目ポイントだ。音のコンセプトは「充実の低域再生」。ホームオーディオで聴く、厚みのある低域を車内でも再現するためインストールされた。キーワードになったのがパワーアンプ。システムとして組み込まれたアークオーディオのパワーアンプ「4200SE TRAD」と「4100SE ADVANCE」はいずれもインストーラーが選んだスピーカーの制動力に惚れ込んでチョイスしたモデル。またミッドレンジには同ブランドの「Black4.0」をチョイス。4インチミッドを使うことで厚みのある中域再生を実現。ユニットチョイスとインストールで躍動感あるサウンドを作り上げたデモカーだ。